

「ご当地検定」は「地域力」を高められるか ～最近の動向と地域振興への展開可能性について～

日本政策投資銀行地域振興部 課長

中村 聡志



「ご当地検定」と地域振興；本稿の目的

最近テレビのバラエティ番組を見ていると、「〇〇検定」と題したクイズ企画が多いことに気づく。「英語検定」や「簿記検定」のようにベーシックな資格になったものや「漢字検定」のようにニュースでよく採り上げられるようなものまで、もともと「検定」は私たちにとってなじみ深いものであるが、最近のこの傾向は、各地で「ご当地検定」が次々と生まれて、ブームとまでいわれていることと無関係ではないだろう。

筆者も、前任地鹿児島で「かごしま検定（正式名称：鹿児島観光・文化検定）」の実施（2006年4月第1回検定開催）に関与するという、貴重な機会を得た。

「かごしま検定」は、鹿児島に関する自然・歴史・文化・地域・産業経済などの知識を、テキストやセミナーを通じて学習し、試験でその成果を問うものであり、「九州新幹線の全線開業を5年後に控え、鹿児島では、魅力ある街づくりとともに、全県的な観光に向けたソフトの推進が求められて」いるとの認識の下、「県内外を問わず、多くの方々が、鹿児島への関心を持っていただくとともに、一人でも多くの鹿児島ファンを増やしていく」ことを目的に掲げた。

検定レベルは難易度によって「かごしまマスター（標準クラス）」、「かごしまシニアマスター（上位クラス）」、「かごしまグランドマスター（最上位クラス）」の3段階

に分かれているが、徒に難問を追わず、特に「かごしまグランドマスター」試験は小論文や観光コースを自ら作ってみる問題など、自分の言葉で鹿児島の魅力をどれだけ表現できるかにこだわっている。また、テキストの充実やセミナーの積極的開催、東京での試験実施（2007年11月の「マスター」試験から）など、「県内外の多くの人に鹿児島の魅力を知らしめる」という明確なコンセプトの下、さまざまな取り組みを仕掛けてきている。なお、合格者に対しては合格通知書が交付されるとともに、一部観光施設などの入場割引を行う特典も与えられる（特典は2007年度から）。

特に、2006年4月の第1回試験（このときは「マスター」試験のみ実施）の際は、当初予想を大幅に上回る約2,300人が受験した（これは第1回の受験者数としては比較的多い方である）。公式テキストは約6千部以上販売され、事前に開催された受験対策セミナーも2日間で約1,000人が詰めかけるなど、ちょっとしたブームが生じた。

ここ、愛媛県においても「松山観光文化コンシェルジュ検定」や「四国観光検定」、「宇和島『通』歴史・文化検定」などユニークな「ご当地検定」が実施されている。既にご存知の方も多いと思うが、「松山観光コンシェルジュ検定」は、「松山を訪れる観光客に対して、親切なおもてなし対応ができる人材を育成すること」を目的とし、2006年3月に「初級」をスタートした。